

2019. 4.13(予選) 14(決勝)

日産自動車大学校 レースレポート



2019 AUTOBACS SUPER GT Round1 OKAYAMA GT 300KM RACE



スーパー耐久から
スーパーGT 新ステージへ

スーパー耐久(以下S耐)活動に続き、今回のスーパーGTにも学生スタッフが、KONDO Racing Teamのスタッフとして、参戦させていただきました。初戦ということで学生の中にも

緊張感が高まる中、岡山国際サーキットに到着し、京都校・愛知校の学生スタッフと顔を合わせ、KONDO Racing Teamのスタッフの方々、日産の販売会社から来られたテクニカルスタッフの方々、様々なスタッフが集結する様子を見て、このチームの一員であることを改めて実感しました。



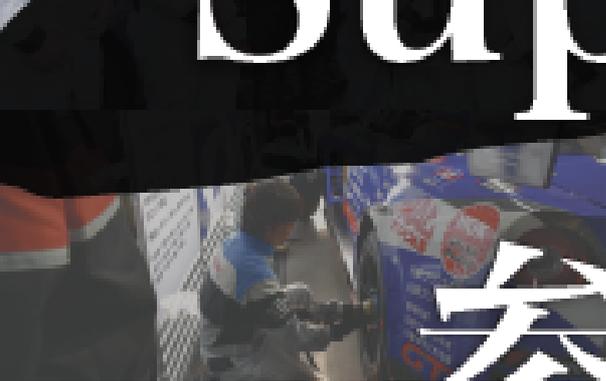
KONDO
Racing Team



NISSAN MECHANIC
CHALLENGE



Super GT



参戦!



Super GT

ついに走行開始！

スーパーGTは、ひとつのサーキット内に異なったクラスのマシンが走る事になるので、抜き抜かされの技術が要求されます。その中で、それぞれのドライバーは、チームの想いを背負ってステアリングを握ります。

予選は、選手の緊張もなく、リラックスした好調な走りで、8位という結果でした。KONDO Racing Teamとしても、初参戦の中、良い結果を残せたとおっしゃっていました。

本戦は、レース開始前から天候があまりよくなく、走行開始に近づくにつれて、雨足も激しくなってきました。

本戦開始は、セーフティーカーが、先導してのスタートになったのですが、前走車両が跳ね上げる雨で視界が悪く、クラッシュやスピンが多発し荒れたレースとなり、5位という結果で、GT初戦の幕がおりました。

Final #56

01: 3,23,128 sc(雨)

02: 2,21,702 |

03: 2,03,177 sc解除

5位 04: 1,54,607 sc(クラッシュ)#5,#251コーナー 接触

05: 2,44,521 |

06: 2,34,031 |

07: 2,29,580 |

08: 2,33,027 |

09: 2,26,447 |

10: 2,10,077 sc解除

4位 11: 1,42,836

12: 1,42,642

13: 1,45,223 sc(クラッシュ)#7,#10,#23ミス多量車体破

14: — 赤旗

15: 2,24,288 sc

16: 2,30,846 |

17: 2,28,284 |

18: 2,23,218 |

19: 2,09,516 sc解除

20: 1,40,366

21: 1,34,588

22: 1,39,092

6位 23: 1,46,057 押し出される

24: 2,00,472 sc(スピン)#1,#50スピン、クラッシュ

25: 2,44,724 |

26: 3,58,704 |

27: 2,13,113 |

28: 2,49,016 |

29: 2,55,238 |

30: 2,45,438 #11,#52接触車体破

31: 2,52,302

32: — 赤旗終了



REALIZE

憧れと目標が、そこにはありました。(テクニカルスタッフ インタビュー)

日産販売会社から、テクニカルスタッフの方が6名参加されました、内5名が日産自動車大学の卒業生ということで、学生スタッフも、自分たちの将来像として先輩を見ることができました。インタビューでは、「学校生活の中で上下関係をしっかり学ぶこと」「教員の現場での話を自身の経験として捉え、現場での動きを想像すること」などの大切さを、話してくださいました。



現場だから感じられる緊張感を知ってほしい(統括本部長 河野氏へのインタビュー)

日産校の学生の立ち居振る舞いは、どこでも見られてる。日産校、KONDO Racingの看板を、背負っている事を自覚した行動をすること。

「社会人になると出てくる仕事での意識や緊張感、切り替えが学生の内に現場で学べる。嫌なことでも達成感や次への自信に繋がる。そういったところを現場の空気で学んでほしい。」と、学生の成長を期待してくださいました。

テクニカルスタッフを活用したのは、学生と卒業生が一揃に活動することによって、学生は先輩の動きを間近に見ることができ、テクニカルスタッフは自分の母校を大切にしたい気持ちが高くなる。その環境を大切に感じて欲しい。



ドライバーインタビュー

インタビュー：西田



左：平峰選手

右：サッシャ選手

西田 今回の、スーパーGTをどのような心構えで臨まれましたか？

平峰 ワクワクしてる。とにかく早く走りたい、早く勝負したい。
そういった気持ちが強く、お互いに連絡を取り合って同じ気持ちだった。

西田 サッシャ選手は、岡山国際サーキットが初めてですが、平峰選手から見てどうでしたか？

平峰 他の選手より経験は浅いかもしれないが、テストもこなしているし、若いので吸収が早い。
速さもあるので問題なく、彼は本当に良い選手です。

西田 ドライバーとして、S耐と比較して、走ってみて感じた違いはありますか？

平峰 単純に車が違うし、S耐と比べてタイヤなども違う。
この車で早く走れるセットアップを見つけていくことです。

西田 学生の動きで感じたところはありますか？

平峰 やることが多く、時間もタイトなスケジュールですが、落ち着いてしっかりやってくれている。
雰囲気や作業も違ってくる中で、速く慣れようとしてくれている。

西田 スーパーGTの場に、参加していない人に興味を持ってもらうには？

平峰 現場に来なければわからない雰囲気、匂い、音。刺激がとにかく多い。
多額の予算がかかってやっている仕事なので、アルバイトでは経験できない仕事です。
たくさんの企業の方々のおかげで活動できているし、トップレベルでの仕事を、真剣勝負をして
結果の求められる世界でやっているのだから、いろんなプレッシャーがかかる世界です。
それは、現場に来なくては、モニターでは伝わらない事です。
それを現場に来て感じ取ってもらいたい。

西田 日本で初めてレースした感想は？

サッシャ 良い経験になる。良い形で迎えられてる。チームも良いチーム。

西田 日本で走って初めて受けた刺激などはありますか？

サッシャ ものすごくファンが多い事に驚いている。

西田 歳の近い学生スタッフが一緒に活動している感想は？

サッシャ この歳でなかなかこういった経験はできないし
学生が一生懸命にサポートしてくれているのも伝わる。
将来役立つので良いと思ってる。一緒に活動してくれて助かる。

現場でしか味わえない 刺激

現場に来なければわからない雰囲気、匂い、音。刺激がとにかく多い。
結果の求められる世界でやってるんで、いろんなプレッシャーのかかる世界。
それは、やっぱりモニターでは伝わりづらい。それを現場に来て感じ取ってもらいたい。

学校生活だけでは味わえない刺激 交流がそこにはある。

平峰選手(ドライバーインタビューより)



レースの交流によって その後の学生生活も充実する

統括：北野 拓海 (きたの たくみ)

レースの裏側から、先輩テクニカルスタッフやレースメカニックの
整備技術を間近で学ぶ事ができる。
他クラス、他学年との交流もあり、活動中だけでなく
その後の学校生活も、充実したものになります。



先輩に「すごいじゃん！」 次も頼む！と言われて嬉しかった

統括：野崎 涼太 (のざき りょうた)

最初は誰だって、ミスや空回りをしてしまうと思う。
でも、めげずに何度だって挑戦できる人が、
成長できると思うから、怖がらずに取り組んでほしいです。



凄く間近で ドライバーと関われる

ドライバーサポート：辻 宥共 (つじ ひると)

初めてのドライバ・サポートで緊張と、どんな事をするのか、わか
らない不安の中で、スタートしましたが、チームの方に丁寧に教えて
いただいて、手伝いのできたので、とても貴重で楽しい経験になり
ました。

広報スタッフ

成長の共有 継続するための記録

を逃すことなく記録する大切な役割です。

先輩から後輩へ、引継がれるスタッフとしての働きや成長を記録し次のチームに引き継ぐ大切な目的もあります。

スーパーGT学生スタッフ「広報部」です。貴重な経験ができるスーパーGTの現場で学生の交流や成長



・松尾 和哉(リーダー)

カメラマン

・南島 昂(サブリーダー)

カメラマン、動画・レースレポート編集

・西田 孝久

カメラマン、インタビュアー

・谷川 優

カメラマン

・高橋 朝花

カメラマン、インタビュアー

・松原 啓

カメラマン、インタビュアー

PRESS
岡山県立大学
120
OKAYAMA
General Group